

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 もがみ)

事業所番号	0671200210		
法人名	社会福祉法人 妙光福祉会		
事業所名	寒河江やすらぎの里 認知症高齢者グループホーム		
所在地	山形県寒河江市本楯二丁目24番1		
自己評価作成日	平成26年8月22日	開設年月日	平成14年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の思いを大切に、元気で明るく生き生きと暮らせるように支援する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成26年 9月 24日	評価結果決定日	平成26年 10月 8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

もう一つの我が家、住み慣れた地域で笑顔で安心した生活という理念の共有と実践のため、その対応策を事業計画の中で職員と話し合い日々のケアに活かしている。現状に満足せず様々な課題を事業計画の中で目標とし、その対応策を掲げ問題意識を持ちながら更なるサービスの向上に向け努力している。利用者のおもいを大切に、介護計画も定期的に見直され詳細な計画の作成が行われている。また、外出や入浴の希望は最大限実現するよう工夫している。併設する老人保健施設等と職員間の連携や研修、施設の利用等利用者一人ひとりの思いに応えられるよう様々なサービスが行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画書を通じ共有し、目標を立て実践につなげている。	もう一つの我が家、住み慣れた地域で笑顔で安心した生活を理念に掲げ、その共有と実践のため毎年事業計画の中で重点事項及び対応策を職員と共に作っている。職員は食事や掃除など利用者と共に協力し合い家庭的な環境になるよう普段から努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のいきいきサロン(はつらつ本榎)に月2回参加。体操やゲーム等にて交流を図っている。	前回の目標達成計画通り、地域のいきいきサロンに積極的に関わり、その中で事業所としての役割を担い交流の拡大に努力している。ボランティアや実習生の受け入れ等積極的に行っている。事業所行事へ地域の方の参加の呼びかけや、地域の避難場所としての役割など、地域との関わりも大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な啓蒙活動は実践できていない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者状況や活動状況等を写真を見て頂きながら報告している。会議内で頂いた意見や情報等は、職員会議や伝達ノート等で全職員へ伝達し、サービス向上に努めている。	家族、地域代表、民生委員、市職員等で構成され2か月に1回開催されている。事業所の現状や取組等が話されている。1回は食事会を一緒に行い、事業所の実態が良く分かるような工夫も行われている。お好み献立や、外食、災害対策等事業所の取組に多様な意見が出されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所相談や他事業所との情報提供等協力関係を築くよう取り組んでいる。	市とは運営推進会議を通して事業所の状況や取組が報告されている。個別の問題には市担当者と連絡を取りアドバイスを受けながら協力関係を築きサービスの向上に役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>行動の制限をしないよう自由に動ける環境を整えている。</p>	<p>身体拘束ゼロ・虐待防止委員会により研修等で職員に周知している。職員はその具体的な行為やもたらす弊害等を理解している。行動の制限をしないよう、その原因や対応策等を職員間で話し合い連携し、利用者に寄り添いながら見守り、安全を確保し、不適切な対応を防ぎ、鍵をかけないで過ごせるよう工夫している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束ゼロ・虐待防止委員を中心にユニット会議で研修会を行っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護に関してもユニット会議の中で研修会を行っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入退所時には、個別に説明をしている。改正等に関しては、その都度説明会を行っており、理解・納得を図っている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見箱を設置し、自由に意見が述べられるようにしている。面会時は、話しやすい雰囲気づくりに努めている。また、定期的に法人の第三者委員が巡回訪問し、利用者や家族の意見を聴取している。</p>	<p>家族懇談会や行事に参加を呼びかけ、面会時等は時間を取って話すことにより意見等を表しやすい雰囲気を作っている。3か月ごと法人の第三者委員が訪問し、利用者や家族等が外部の者に意見を表せる機会を作っている。委員からは掃除等意見が出され、速やかに対応している。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>ユニット会議の際、意見の出しやすい機会を設け反映させている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	週休2日、週40時間の完全実施。随時臨時職員から正規職員への採用試験の実施等職場環境・条件整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職場内研修として、各委員会主催で行う施設単位の研修や法人主催の研修、事業所単位で行う研修等、様々実施。外部研修は社会福祉研修センターの他、各種団体による研修会へ参加している。	評価シートにより職員が自己評価を行い、管理者等が評価することで職員の力量の把握や、働きながらトレーニングする機会となっている。法人による研修や、併設施設との研修、事業所内での研修等学ぶ機会は十分にある。外部研修には職員の希望や力量に応じて派遣し、レポートや伝達により他職員への周知が行われている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会に加入し、定期的な情報交換を行っている。	グループホーム連絡協議会の研修や情報交換、交換研修等で管理者や職員が交流する機会をもっている。職員は交換研修により他事業所との違い等を参考にしサービスの向上に役立てている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は特に環境に慣れるよう十分は配慮を行い、居室担当制を実施し対応、馴染みの関係づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の生活歴を把握した上で随時話を傾聴し、安心出来る環境作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問調査でのアセスメントをもとに、サービス利用開始後も随時本人、家族に聞き取りしながらサービス提供に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の同意を得て常に一緒に行う姿勢で実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	相互の立場を明確にし、協力体制をとりながら支援をしている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の面会や外出の機会を増やし、関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人個人を尊重し調和が取れるよう職員が間に入り、円滑な関わりが出来るように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談があれば、いつでも応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いを汲み取り、ニーズの把握に努めている。日々の会話やセンター方式を使用しての希望の確認、利用者本位の生活が出来るように努力している。	本年度の事業計画の重点項目の対応策に「利用者の声に耳を傾け、思いや表情を大切にする」ことを掲げ、思いや意向の把握に努力している。一部センター方式を活用しながらアセスメントを繰り返し職員の気づきを交えながら本人本位の意向となるよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より情報収集を行っている。入所後も日々の会話の中から様々な情報の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で常に状況の把握に努め、3ヶ月に1回及び随時、ケース会議にて確認を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の会話の中で本人から希望を引き出すようにしている。また、家族面会の際は、状況報告を行い家族の希望を確認している。3ヶ月に1回モニタリングを行い、介護計画の検討を実施している。	毎月の評価と3か月ごとのモニタリングを経てサービス担当者会議を開催し、家族や職員の意見を踏まえながら、計画の見直しを行っている。計画は利用者ごとの必要な課題を分析し詳細な計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や申し送り、月1回のユニット会議を通し、情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーマーケットや菓子店へ出掛けたり、月2回のいきいきサロン(はつらつ本楯)に参加し、地域住民と情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医は、本人家族の希望で選択している。受診時は、希望に応じ主治医に病状や生活状況等を伝えるなど支援している。</p>	<p>原則通院は家族により行われているが、状況等により事業所でも支援している。バイタルや事業所内での生活等を記載したメモを活用し、医療機関との情報の共有を図っている。受診結果等は記録に残し安心して医療を受けられるよう努力している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護職員の配置がない為、直接主治医との連携を図っている。緊急時には、併設の老健へ看護員の協力を依頼するなど、適切な処置が受けられるように努めている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>家族や医療機関との連携を図り出来る限りグループホームに戻れるように努めている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合は、家族や主治医と相談しながら対応する事、医療依存度が高くなった場合の対応についてなどを、入所時に説明している。重度化した際には、家族を含めた担当者会議を行い、今後について話し合い検討している。家族状況に沿って特養申請も進めている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変や医療的な処置が必要になった時は、併設の老健より協力を得ている。応急手当や初期対応のフローチャートを事務所内に設置、研修会を行っているが、実践には至っていない。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災委員を中心に年2回以上の防災訓練を実施している。定期的な防災設備点検も行っている。運営推進会議の中で地域との協力体制についても話し合っている。</p>		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人の性格に合わせ状況にあった対応、声かけプライバシーに配慮した支援を心掛けている。	接遇委員会により研修等を開催し職員に周知している。職員も人生の先輩として敬意を払い、普段から不適切な対応の無いよう努力している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に会話を多くもち、利用者の希望に添えるように努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人個人のペースで生活出来るように努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に身だしなみを整え、外出時などは利用者の意志を尊重し職員と一緒に選んだり、毎日の整容、定期的な爪切り等支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お好み献立として利用者と一緒に献立を考え、利用者と共に調理を行っている。	食事の楽しみと残存機能維持を図るためお好み献立を週1回行っている。法人によるクックチルによるサービスであるが、汁やおひたし等は事業所で利用者と一緒に調理している。行事や外食等の機会を設け食事にアクセントをつけ食事が楽しみになるよう支援も行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	既往歴や体調を確認しながら食事形態や量、水分量に注意している。こまめな水分補給にも努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。また、毎夕食後に義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、本人の自尊心に配慮し、利用者に合わせて対応している。	排泄チェック表を基に適時の声掛け誘導により支援している。日中はおむつを使用せず、トイレ誘導を重視し排泄の自立に向けた支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分強化や処方された下剤等で排便コントロールを行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎日、利用者の希望を確認し、要望に沿った時間に入浴ができるように対応している。	利用者の希望に応じ毎日の入浴や、夕食後、夜間の入浴等多様なサービスを実施している。利用者の身体機能や希望により併設事業所の大浴室も活用し、利用者の個々に応じた支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人個人に合わせ、安心して入眠できるように環境を整え支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋内容をカルテにファイルし、常に確認できるようにしている。内服薬変更時や支援内容の変更時は要観察者として状況把握に努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中で家事や掃除等、出来るところや得意なところを見つけ、支援している。畑作業やショッピング、外食等個々の希望を取り入れ張り合いのある生活が送れるよう支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域のいきいきサロン(はつらつ本榎)やショッピング、ドライブ等の外出の機会、個別対応での希望に添った外出を行っている。	花見、紅葉見学等季節に応じた行事のほか、いきいきサロン、買い物、天候等に配慮しながらドライブ等外出の機会を確保している。事業所の中庭には居間、廊下からすぐに出られるようになっており、ベンチ等が置かれ、日常的に外気に触れる環境がある。また、敷地内の畑や、駐車場等敷地が広く安全に外気に触れられる環境にある。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>個人のお金を所持している利用者もおり、支払いの際にはなるべく本人が支払いできるように支援している。</p>			
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>希望に応じ電話等の支援を行っている。</p>			
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を取り入れた創作活動を行い、写真、花などを飾り、明るい心地よい空間づくりに心を掛けている。</p>	<p>居間、廊下は床暖房になっており、温度や湿度が管理されている。居間、廊下に囲まれた中庭は外光の取り入れや、広くベンチ等が配置され外気浴等機能を果たしている。居間は季節ごとの飾りつけや利用者の作品、思い出の写真等が掲示され、リビングと和室があり思い思いに過ごせる空間となっている。廊下にはソファや椅子で一休み出来るよう配慮され、気の合った利用者同士話ができる談話スペースも作られている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にベンチやソファを設置し、思い思いに過ごせるようまた休む場所にもなるように工夫している。</p>			
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人や家族の希望を聞き、使い慣れた馴染の物を持参して頂き安心して過ごせるよう環境整備に努めている。居室担当を中心にダンス内の整理等を一緒に行っている。</p>	<p>利用者や家族と話し合い、なじみの物等の持ち込みがあり、家具や飾りつけ等利用者それぞれが好みに応じ配置されている。利用者の身体機能や希望により個別に畳等敷かれており、居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレ入り口に分かりやすい案内を貼ったり、照明をつけている。廊下に手すりやバリアフリー等で利用者が行動しやすいようにしている。</p>			